

## 「基礎研究医養成活性化プログラム」における工程表

申請担当大学名	名古屋大学
連携大学名	名古屋市立大学、岐阜大学、三重大学、浜松医科大学、愛知医科大学
事業名	人体を統合的に理解できる基礎研究医の養成

### ① 本事業終了後の達成目標

本事業終了後の達成目標	
達成目標	東海地区の医学部を有する6大学が連携し、「ヒトの病態を俯瞰できる基礎研究医」および「研究マインドを持った病理学・法医学研究医」を養成する。そのために、基礎研究医および病理学・法医学研究医を養成するための体系的・組織的大学院プログラムを開発し、基礎研究志向の大学院生に対して魅力的なカリキュラムを開発・提供する。本事業によって、病理学や法医学等の分野における有能な基礎研究医の着実な確保を図るとともに、連携大学間の学生・教員の交流や情報交換を促し、連携大学全体の研究・教育をボトムアップする。

### ② 年度別のインプット・プロセス、アウトプット、アウトカム

		H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度
インプット ・ プロセス (投入、 入力、 活動、 行動)	定量的なもの	<ul style="list-style-type: none"> <li>事業推進委員会の開催(2回)</li> <li>担当教員連絡会議の開催(2回)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>コア能力獲得コース開講(各大学1～2コース)</li> <li>事業推進委員会の開催(2回)</li> <li>担当教員連絡会議の開催(2回)</li> <li>外部評価の実施(1回)</li> <li>合同研究発表会の開催(1回)</li> <li>受講者アンケートの実施(1回)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>コア能力獲得コース開講(各大学1～2コース)</li> <li>専門能力学習コース開講(各大学1～2コース)</li> <li>事業推進委員会の開催(2回)</li> <li>担当教員連絡会議の開催(2回)</li> <li>中間評価の実施(1回)</li> <li>合同研究発表会の開催(1回)</li> <li>受講者アンケートの実施(1回)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>コア能力獲得コース開講(各大学1～2コース)</li> <li>専門能力学習コース開講(各大学1～2コース)</li> <li>事業推進委員会の開催(2回)</li> <li>担当教員連絡会議の開催(2回)</li> <li>外部評価の実施(1回)</li> <li>合同研究発表会の開催(1回)</li> <li>受講者アンケートの実施(1回)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>コア能力獲得コース開講(各大学1～2コース)</li> <li>専門能力学習コース開講(各大学1～2コース)</li> <li>事業推進委員会の開催(2回)</li> <li>担当教員連絡会議の開催(2回)</li> <li>外部評価の実施(1回)</li> <li>合同研究発表会の開催(1回)</li> <li>受講者アンケートの実施(1回)</li> </ul>
	定性的なもの	<ul style="list-style-type: none"> <li>各大学にて大学院教育コースの設立準備を開始</li> <li>カリキュラムの策定</li> <li>事業推進委員会、担当教員連絡会議の組織と設置</li> <li>eラーニングシステムの構築</li> <li>ビデオ講義の準備と作成</li> <li>専用ホームページの開設及びプログラム広報(パンフレット・ポスター)</li> <li>平成30年度大学院生の募集</li> <li>最新情報収集・調査のための学会参加</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>専用ホームページの更新</li> <li>平成31年度大学院生の募集</li> <li>最新情報収集・調査のための学会参加</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>専用ホームページの更新</li> <li>平成32年度大学院生の募集</li> <li>最新情報収集・調査のための学会参加</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>専用ホームページの更新</li> <li>平成33年度大学院生の募集</li> <li>最新情報収集・調査のための学会参加</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>専用ホームページの更新</li> <li>平成34年度大学院生の募集</li> <li>最新情報収集・調査のための学会参加</li> </ul>
アウトプット (結果、 出力)	定量的なもの	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成30年度大学院入学者(8名)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>コア能力獲得コース受講者(8名)</li> <li>合同研究発表会参加者(8名)</li> <li>平成31年度大学院生入学者(8名)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>コア能力獲得コース受講者(16名)</li> <li>専門能力学習コース受講者(8名)</li> <li>合同研究発表会参加者(16名)</li> <li>平成32年度大学院生入学者(8名)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>コア能力獲得コース受講者(16名)</li> <li>専門能力学習コース受講者(16名)</li> <li>合同研究発表会参加者(24名)</li> <li>平成33年度大学院生入学者(8名)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>コア能力獲得コース受講者(16名)</li> <li>専門能力学習コース受講者(16名)</li> <li>プログラム修了者(8名)</li> <li>合同研究発表会参加者(32名)</li> <li>合同研究発表会発表者(8名)</li> <li>平成34年度大学院生入学者(8名)</li> </ul>
	定性的なもの	<ul style="list-style-type: none"> <li>各大学にて大学院教育コースの整備</li> <li>カリキュラムの確定</li> <li>eラーニングシステム、ビデオ講義の環境整備</li> <li>専用ホームページ、パンフレット</li> <li>病理学法医学に関する最新知見の獲得</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>受講者アンケートの調査結果</li> <li>事業推進上の改善点の明確化</li> <li>次年度カリキュラムの確定</li> <li>専用ホームページによる事業内容の発信</li> <li>病理学法医学に関する最新知見の獲得</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>受講者アンケートの調査結果</li> <li>事業推進上の改善点の明確化</li> <li>次年度カリキュラムの確定</li> <li>専用ホームページによる事業内容の発信</li> <li>病理学法医学に関する最新知見の獲得</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>受講者アンケートの調査結果</li> <li>事業推進上の改善点の明確化</li> <li>次年度カリキュラムの確定</li> <li>専用ホームページによる事業内容の発信</li> <li>病理学法医学に関する最新知見の獲得</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>受講者アンケートの調査結果</li> <li>事業推進上の改善点の明確化</li> <li>事業期間終了後の事業実施体制の確定</li> <li>専用ホームページによる事業内容の発信</li> <li>病理学法医学に関する最新知見の獲得</li> </ul>

アウトカム (成果、効果)	定量的なもの					・修了者の特任助教への就職(1名)
	定性的なもの	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ラーニングシステム、ビデオ講義の作成により、環境、教材が整備される。</li> <li>・教員の指導力が向上する。</li> <li>・研究医育成プログラムが周知される。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生間の交流や情報交換の実施により、学生の研究マインドが涵養される。</li> <li>・自己評価および外部評価の意見と受講者のニーズを取り入れたより改良されたカリキュラムが作成される。</li> <li>・教員の指導力が向上する。</li> <li>・研究医育成プログラムの認知度が向上する。</li> <li>・連携大学毎のノウハウを共有することで教育の質が向上する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生間の交流や情報交換の実施により、学生の研究マインドが涵養される。</li> <li>・自己評価および中間評価の意見と受講者のニーズを取り入れたより改良されたカリキュラムが作成される。</li> <li>・教員の指導力が向上する。</li> <li>・研究医育成プログラムの認知度が向上する。</li> <li>・連携大学毎のノウハウを共有することで教育の質が向上する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生間の交流や情報交換の実施により、学生の研究マインドが涵養される。</li> <li>・自己評価および外部評価の意見と受講者のニーズを取り入れたより改良されたカリキュラムが作成される。</li> <li>・研究医育成プログラムの認知度が向上する。</li> <li>・連携大学毎のノウハウを共有することで教育の質が向上する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学、研究機関へプログラムを修了した有能な研究医を輩出する。</li> <li>・学生間の交流や情報交換の実施により、学生の研究マインドが涵養される。</li> <li>・自己評価および外部評価の意見と受講者のニーズを取り入れたより改良されたカリキュラムが作成される。</li> <li>・教員の指導力が向上する。</li> <li>・研究医育成プログラムの認知度が向上する。</li> <li>・連携大学毎のノウハウを共有することで教育の質が向上する。</li> <li>・事業期間終了後も各大学において自立して事業が継続される。</li> </ul>

### ③ 推進委員会所見に対する対応方針

要望事項	内容	対応方針
①	本事業は各大学の連携の下で実施するものであることを踏まえ、事業責任者のリーダーシップの下、事業における各大学の役割や責任体制を明確化し、連携大学すべてが一体となって事業を推進すること。また、事業期間終了後も各大学において、長期的な展望に基づく具体的な事業継続の方針・考え方について検討し、自立化した事業体制を構築すること。	本事業に参加する6大学はこれまでも一体となって基礎医学研究医育成の取り組みを行っている。名古屋大学大学院医学研究科長のリーダーシップの下、各連携大学1～2名の教員が事業推進委員となり、責任を持って事業を推進する。大学毎の事業推進委員の下、各大学の事業体制を構築し、事業期間終了後も各大学にて事業を継続する。
②	厳格な事業の進捗管理の下、自己点検・評価や外部評価を実施し、事業の不断の見直しを行いつつ、臨床医学分野との連携を見据えた、優れた基礎研究医を養成するための体系的な教育プログラムを展開すること。その際、プログラム受講者に対する将来的なキャリアパスの明示及びポストの確保等、受講者のキャリアパス形成に資するものとする。また、客観的なアウトプットやアウトカムを年度ごとに明確にすること。	事業推進委員会の下、事業の進捗管理や自己点検・評価を行う。学生アンケートを年1回実施し受講者からのニーズを拾い上げる。また、外部評価を年1回実施する。これらで指摘された改善点について事業の見直しを継続して行い、プログラムの改善を図る。またこれまで連携大学毎、研究室毎に保持してきたキャリアパスやポストについて連携大学間、受講者間で情報を共有し、受講者のキャリアパス形成を促す。年度毎のアウトカム、アウトプットを明確にし、連携大学間で共有することで、事業の実現を図る。
③	成果や効果は可能な限り可視化した上で、地域や社会に対して分かりやすく情報発信すること。また、他大学の参考となるよう、特色ある先進的な取組やモデルとなる取組について、実現するためのノウハウ、留意点等も含めて積極的に情報発信するなど、成果等の普及・展開に努めること。	本プログラムで得られた成果や効果は、ノウハウや事業推進において明らかになった改善点を含め、事業推進委員会と担当教員連絡会議を利用して、連携大学間で共有する。また教員や大学院生が参加する学会やミーティング、本事業ホームページを利用して、積極的に外部へ発信する。

### ④ 推進委員会からの主なコメントに対する対応方針

推進委員会からの主なコメント(充実を要する点)	対応方針
病理、法医学への興味を喚起し裾野を広げる可能性は高いが、病理医、法医増加への直接的効果については不明確である。	学部生や卒業生に対し研究医としての病理医や法医のキャリアパスの魅力を知り、特に研究医を志す医師を積極的に病理、法医学分野へ取り込むことで、研究マインドを持った病理医、法医を増やす。
若い研究医を引き付けるようなプログラムの魅力を高める工夫が求められる。	各大学から、非常に多彩で特色のある講義を提供することで、病理医、法医学志望者のみならず研究医志望の学生にとっても魅力のあるプログラムを提供する。
東海地区全体で連携して指導を行うことで、地区全体の研究・教育を活性化するとのことであるが、事業と研究・教育の活性化との具体的な関連について不明確である。	本事業に関わる委員会、会議、合同発表会を利用して、教員の交流や教育ノウハウの共有を図り、連携大学全体の教育を活性化させる。また本プログラムを終了するためにはポイントの半分を自大学以外で取得する必要がある。これにより参加学生の移動や交流を促し学生の研究マインドを涵養する。これらにより、連携大学全体の研究を活性化すると共に、研究交流を促進し、共同研究など、研究のさらなる活性化に繋げる。